

そう だい かい せき  
総 題 「家族の四季」

だい 3 かい へんか そな  
第 3 課 変化への備え

てらうちみつかず  
寺内三一

あんそくにちごご  
1. 安息日午後

じんせい へんか か  
人生は変化します (変わります)。

いっまでも同じではなく、変化して成長をすることが喜びになります。

しかし、病気や老いや死などの苦しいことへの変化もあります。

人生の変化の喜びを、さらに大きくするのも、変化の苦しみを少しでも少なくするためにも、備えが大切です。

「備えあれば憂いなし (いつも準備していれば、どんなことが起きても心配することはないという、ことわざ)」  
と将来のことを考えて準備する人は、幸せな人生を過ごせます。

しかし (ことわざ)

・「泥棒を捕えてから縄をなう (泥棒を捕まえてから慌てて縄を準備しても、泥棒は逃げてしまうという意味)」  
ひと  
人、

・「馬を盗まれてから馬小屋で錠をする」人

は、手遅れになってしまい、本人も周りの人も幸せな人生を送ることが出来ません。

じんせい たいせつ できごと  
人生の大切な出来事である

しゅうしよく けっこん おや こそだて だれ かなら く お し  
～ 就職 や結婚 ～ 親としての子育て～ 誰にも必ずやって来る老いや死～

そな ほんとう たいせつ  
に備えることは本当に大切です。

そして、イエス様の再臨と天国への霊的な備えはさらに大切です。

「ありは力のない種類だが、その食糧を夏のうちに備える。」 (箴言 30 : 25 口語訳)。

ありは、やがてやって来る食糧が少なくなる冬のために（将来のために）賢く夏のうちに備えるのです。

ありに将来の備えをさせる神様は、私たち人間には、なおさら知恵と知識を与えて下さり、多くの助言者を与えて下さり、何よりも聖書の言葉と神様への祈りによる導きを与えて下さっています。

イエス様は、世の終わりのしるしと、再臨の希望を語られてから

「あなたがたも用意していなさい」（マタイ福音書 24：44）

と将来に備えて賢く生きると言われています。

今週は、人生の変化が私たちの家庭生活に影響を与えることと、人生の変化に備えることの大切さを学びます。

## 2. 日曜日：準備を怠る

聖書を初めて読んだ人が「聖書は本当に信頼できるものだと思う。なぜなら、人間の失敗がごまかさず、はっきりと書いてあるから」と言われました。

人生には「二人の教師（先生）がいる」といわれます。

・良いことを教えてくれて、言葉も行いも素晴らしく、みならおうと模範にしたくなる教師（先生）のような人。

・悪い言葉と行いを見せて、「あの人のようにならないようにしよう」という失敗の教訓を与えてくれる「反面教師」（悪い見本）。

聖書には3種類の人が記されていると思います。

①困ってから（失敗してから）神様に祈り、悔い改める人。

②困る前に、失敗しないように（困らないために）神様に祈り祝福を受ける人。

③困っても（失敗しても）悔い改めない人～神様に祈らない人、滅びる人です。

聖書には、人間の失敗がこれでもかという程書かれています。

他の人の失敗を自分のことのように思い教訓として生きる人は、聖書を人生の大切な助言者として受け入れ祝福される人です。

イエスの弟子のペテロの失敗を自分の失敗のようだと思って

「私 はもう一人のペテロだ~私 もペテロのように悔い改めて、

再び祈り、神様を信頼して再スタートしよう」

と信仰生活を歩む人には、神様の祝福が与えられるのではないのでしょうか。

### 3. 月曜日：結婚に備える

結婚生活は神が判定された(決めた)もので、「神の愛が現わされる結婚生活は“天国”のようになり、サタンの誘惑に負ける結婚生活は“墓場”となる」と言われます。私達も、アダムとエバの最初の結婚を導いて下さった神に従うことが今も祝福された結婚生活を送る上で大切なことです。

祝福される結婚の条件は「男は父母を離れて女と結び、二人は一体となる」(創世記2:24 新共同訳)とあります。

「父母を離れ」とは、精神的、経済的、信仰的に親から自立して“大人”となることです。まだ大人になっていない子供同士の結婚は“おままごと”になってしまいます。信仰的に自立するとは、言われなくても自分一人でも聖書を読み、学び、祈り、献金し、教会に出席すること(信仰の自炊)です。

(エフェソの手紙5:21~新共同訳)に祝福される結婚(夫婦)とは

「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。

妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。

夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のため御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。

(二人は一体なので)・・・そのように夫も自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。

・・・妻は夫を(神を敬うように)敬いなさい。」とあります。

神様との関係が、人との関係にも現れます。それは、結婚生活に最も現れるのではないのでしょうか。

問3に具体的にあるように、

・一生懸命に働く人

・怒りやすい人(感情に流される人)ではない人

・同じ信仰を持つ人(価値観の共通している人)

たが かぞく おも りかい ひと  
・互いの家族の思いを理解している人

しゅ しんらい じぶん ふんべつ たよ ひと かみさま ところだいいち ひと  
・主に信頼し自分の分別には頼らない人(神様のみ心 第一にする人)。

わたし しゅうしょく とき あんそくにち まいしゅうまも しごと えら  
私は、就職する時は、安息日を毎週守れる仕事を選びました。

けっこん とき おな しんこう も ひと おも けっこん だいいめ かた  
結婚する時は、まず同じ信仰を持つ人と思って結婚しました(SDAの4代目の方でした)。

かみさま よろこ みち えら みち あゆ とき かみ やくそく しゅくふく あた くだ  
神様に喜ばれる道を選び、その道に歩む時に神は約束の祝福を与えて下さるのではないのでしょうか。

しゅごじしん た くだ いえ た ひと ろうく しへん  
「主御自身が建てて下さるのでなければ、家を建てる人の労苦はたない。」(詩編127:1)とあります。

いえ だいく き た かてい かみ あい た い  
「家(ハウス)は大工さんが木などで建てるが、家庭(ホーム)は、神の愛によって建てられる」と言われるよう  
かみ みちび かみ あい あらわけっこんせいかつ かていせいかつ めざ  
に神に導かれ、神の愛を現す結婚生活、家庭生活を目指したいものです。

#### 4. 火曜日：子育てに備える

こども ふうふ かぞく たから かぞく しゅくふく こうどう ことば たいど こんわく  
子供は夫婦、家族にとって宝となり家族の祝福ともなれば、行動、言葉、態度に困惑することもあります  
かみさま たまわ こども かみさま あい ちえ そだ たいせつ せきにん おや  
神様から賜った子供を、神様の愛と知恵で育てていく大切な責任が親にはあります。

おお おや いの おや いの  
これは多くの親が祈る「親の祈り」です。

おやじしん たましい おや かみ そだ たいせつ  
まず、親自身が魂の親である神に育てられることが大切です。

かみさま わたし くだ こども い き ところ ぎもん しんせつ こた こども りかい  
「神様、もっとよい私にしてください。子供の言うことをよく聞いてやり、心の疑問に親切に答え、子供をよく理解  
わたし くだ  
する私にしてください。

りゆう こども ところ きず たす くだ  
理由なく子供の心を傷つけることのないようにお助け下さい。

こども しつぱい わら こども ちい まちが め と よ ところ み くだ  
また子供の失敗を笑ったりせず、子供の小さい間違いには目を閉じて、良い所を見させて下さい。

よ ところ ところ の  
良い所を心からほめてやり、伸ばしてやることができますように。

おとな はんだん しゅうかん こども  
大人の判断や習慣で子供をしぼることのないように。

こども じぶん はんだん じぶん ただ こうどう みちび ちえ あた  
子供が自分で判断し、自分で正しく行動していきけるように導く知恵をお与えください。

かんじょうてき しか ただ ちゅうい  
感情的に叱るのではなく、正しく注意してやれますように。

どうり ものごと すじみち きぼう かれ  
道理(物事の筋道)にかなった希望はできるだけかなえてやり、彼らのためにならないことは、やめさせることが  
できますように。

どうぞ意地悪な気持ちを取り去って下さい。不平を言わないよう助けて下さい。

親が間違った時には、きちんとあやまる勇気を与えて下さい。

いつも穏やかな広い心をお与え下さい。

子供といっしょに成長させて下さい。

子供が心から私を尊敬し慕うことができるよう、子供の愛と信頼にふさわしい者として下さい。

子供も私も神様によって生かされ愛されていることを知り、他の人々の祝福となることができますように。」

## 5. 水曜日：老年に備える

私は18歳で聖書に出会い、20歳でバプテスマを受けました。

バプテスマを受けるまでに何度もこの聖句を聞きました。

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。悪しき日がきたり、年が寄り、『わたしにはなんの楽しみもない』と言うようにならない前に、・・・」(伝道の手紙12:1 口語訳)。

平均寿命が延びている今は「人生百年時代」と言われます。

私は現在62歳、あと3年で牧師の定年です。定年の65歳から男性の平均寿命の80歳まで15年。

百歳とはいわずとも90歳では25年。老後は長いのです。

以前、男性は、定年後やる事がなく家でゴロゴロして「粗大ごみ」といわれました。

老人ホームのチャプレン(施設の牧師)をしていた時に、ある老年の方が「何もすることがない。お迎えがなかなか来ない……。」と寂しそうな表情で言われたのを忘れることができません。

肉体的にある程度元気でも、精神的な目標や生きがいがなければ、また霊的、信仰的に心と魂の満たしと天国の希望がなければ老後は空しく(寂しく)なります。

病気や認知症、家族との交わりが不足すればなおのこと(少ないと)「わたしにはなんの楽しみもない」というだけでなく、心も体もつらく苦しい老後となります。

ガイドにあるように、

① (一日でも)若い時に神と出会い、神を個人的に知り、イエス様に重荷を下ろし(ずっと気にしていることをイエス様に渡し)、神からの慰めと励ましと希望と力をいただくことなしに穏やかな(落ち着く)老後お送れません。

②良<sup>よ</sup>き心<sup>こころ</sup>と体<sup>からだ</sup>の健康<sup>けんこう</sup>維持<sup>いじ</sup>の習慣<sup>しゅうかん</sup>（ずっと毎日繰り返す）を持つ。心<sup>こころ</sup>も体<sup>からだ</sup>も老<sup>ふ</sup>け込まないで若<sup>わか</sup>々<sup>わか</sup>しくいら

れます。

③「神<sup>かみ</sup>のために、人<sup>ひと</sup>のために、そして自分<sup>じぶん</sup>のためにすべき使命<sup>しめい</sup>（神様<sup>かみさま</sup>から与<sup>あた</sup>えられたこと）がある」と思<sup>おも</sup>う。（使命感<sup>しめいかん</sup>）は大切<sup>たいせつ</sup>です。

年<sup>とし</sup>を重ねても体<sup>からだ</sup>が動<sup>うご</sup>かなくても、祈<sup>いの</sup>ることはできます。葉書<sup>はがき</sup>を書<sup>か</sup>くこともできます。

「助<sup>たす</sup>けて下さ<sup>くだ</sup>ってありがとう、優<sup>やさ</sup>しくされて嬉<sup>うれ</sup>しい」と感謝<sup>かんしゃ</sup>と喜<sup>よろこ</sup>びをかか<sup>ひと</sup>わる人<sup>つた</sup>に伝<sup>まわ</sup>えて、周<sup>まわ</sup>りを感謝<sup>かんしゃ</sup>と喜<sup>よろこ</sup>びの場<sup>ばしょ</sup>所<sup>じょ</sup>にすることが出来<sup>できます</sup>ます。

感謝<sup>かんしゃ</sup>が身<sup>み</sup>についた人<sup>ひと</sup>、笑<sup>えがお</sup>顔<sup>よろこ</sup>と喜<sup>まわ</sup>びが周<sup>ひと</sup>りにあふれる人<sup>いま</sup>となるために今<sup>いま</sup>から、

「いつも喜<sup>よろこ</sup>んでいなさい。絶<sup>たえ</sup>えず祈<sup>いの</sup>りなさい。どんなことにも感謝<sup>かんしゃ</sup>しなさい。」

（テサロニケ第一<sup>だいいち</sup>、5:16~18 新<sup>しん</sup>共<sup>きょう</sup>同<sup>どう</sup>訳<sup>やく</sup>）

と<sup>み</sup>の御<sup>ことば</sup>言<sup>ご</sup>葉<sup>ご</sup>を实践<sup>じっせん</sup>して（聖<sup>せい</sup>句<sup>く</sup>の通<sup>とお</sup>りに動<sup>うご</sup>いて）いきたいですね。

## 6. 木<sup>もく</sup>曜<sup>よう</sup>日<sup>び</sup>：死<sup>し</sup>に備<sup>そな</sup>える

死<sup>し</sup>を目前<sup>もくぜん</sup>にした方<sup>かた</sup>が入院<sup>にゅういん</sup>するホスピス病<sup>びょうとう</sup>棟<sup>いし</sup>の医<sup>おお</sup>師<sup>かた</sup>として多<sup>し</sup>くの方<sup>みと</sup>の死<sup>し</sup>を看<sup>か</sup>取<sup>と</sup>られた、柏<sup>かし</sup>木<sup>わぎ</sup>哲<sup>てつ</sup>夫<sup>お</sup>医<sup>い</sup>師<sup>し</sup>は、「人<sup>ひと</sup>

は生<sup>い</sup>きてきたように死<sup>し</sup>んでいく。

人<sup>ひと</sup>に感謝<sup>かんしゃ</sup>しつ<sup>い</sup>つ生<sup>ひと</sup>きてきた人<sup>かんしゃ</sup>は、感謝<sup>し</sup>しながら死<sup>し</sup>んでいきます。

人<sup>ひと</sup>をいたわって生<sup>い</sup>きてきた人<sup>ひと</sup>は、残<sup>のこ</sup>される人<sup>ひと</sup>をいたわりながら死<sup>し</sup>んでいきます。

周<sup>まわ</sup>りに依<sup>い</sup>存<sup>ぞん</sup>して生<sup>い</sup>きてきた人<sup>ひと</sup>は、医<sup>い</sup>者<sup>しゃ</sup>や看<sup>かん</sup>護<sup>ご</sup>師<sup>し</sup>、家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>に依<sup>い</sup>存<sup>ぞん</sup>しながら死<sup>し</sup>んでいきます。

その人<sup>ひと</sup>の生<sup>い</sup>きざまが、死<sup>し</sup>こざまに反<sup>はん</sup>映<sup>えい</sup>するというのが患<sup>かん</sup>者<sup>じゃ</sup>さんから教<sup>おし</sup>えられた一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>大<sup>だい</sup>きなことでした。

『良<sup>よ</sup>き死<sup>し</sup>を迎<sup>むか</sup>えるためには、良<sup>よ</sup>き生<sup>せい</sup>を生<sup>いき</sup>きなけければならない』。

これ<sup>わたし</sup>は私<sup>じしん</sup>自身<sup>まな</sup>が学<sup>さい</sup>んだ最<sup>さい</sup>大<sup>だい</sup>のメッセージであるとともに、わたくしの人<sup>じん</sup>生<sup>せい</sup>に對<sup>たい</sup>するチャレンジ（挑<sup>ちょう</sup>戦<sup>せん</sup>・問<sup>もん</sup>いかけ）でもありまし<sup>い</sup>た。」と言<sup>い</sup>われます。

今<sup>いま</sup>、人<sup>じん</sup>生<sup>せい</sup>の締<sup>し</sup>めくくり方<sup>かた</sup>（終<sup>お</sup>わ<sup>ほう</sup>る方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>）を考<sup>かん</sup>えるために「終<sup>しゅう</sup>活<sup>かつ</sup>」という言<sup>ことば</sup>葉<sup>き</sup>が潤<sup>うる</sup>かれます。

神<sup>かみ</sup>を信<sup>しん</sup>じる者<sup>もの</sup>として、この世<sup>よ</sup>の人<sup>じん</sup>生<sup>せい</sup>の終<sup>お</sup>わり方<sup>かた</sup>だけでなく、「死<sup>し</sup>を迎<sup>むか</sup>える準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>は、何<sup>なに</sup>もより再<sup>さい</sup>臨<sup>りん</sup>と天<sup>てん</sup>国<sup>ごく</sup>の準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>であること」をお<sup>おぼ</sup>えたいと思<sup>おも</sup>います。

いつ死を迎えるかは分かりません。いつ死を迎えても良いように、一日一日を大切にしていきたいと思ひます。  
死の最大の備えは、ガイドにあるとおり「信仰によってあなたが主と確実に（ハッキリと）結びつき、彼（イエス）の義によって一瞬一瞬覆われる以外にない（イエス様の性質に包まれる）」（ローマ人への手紙3:22参照）の  
です。

具体的な終活は『キリスト教の終活・エンディングノート』（いのちのことは社）など多くのものが出版されています。

## 7. 金曜日：さらなる研究

「悪いつきあいは、良い習慣を台なしにする」（コリント第一、15:33 新共同訳）。

「人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。

自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。

……飽きずに励んでいけば、時が来て、実を刈り取る事になります。ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう」

（ガラテヤ6:7~9新共同訳）。

私たちが、今の時を、召された（招かれた）その場所で、「神を愛し、自分を愛し、隣人を愛する生活を〜神を大切にし、自分を大切にし、隣人を大切にする生活」を、祈りつつ、励まし合いつつ、肉親の家族、教会の家族の兄弟、姉妹と共に歩んで行きたいと思ひます。

## 8. 話し合いのテーマ

- 徳川家康が天下を取ったのは、みじめに取れた戦いを絵にして何度も見て教訓として忘れずに同じ失敗をしないようにしたからだと言われます。あなたの忘れてはいけない教訓は何ですか？
- あの人のようになりたい〜あの夫婦、親子、家族、信者さんのようになりたいという目標、模範とする方から祝福の秘訣を聞いていますか？
- あなたが、結婚前の人に、子供を産む前の夫婦に、老いと死を前にした方に〜伝えたい“助言・遺言？”はありますか？ それを伝えてありますか？